当代外语研究论丛
FOREIGN LANGUAGES STUDIES

中日民间故事中异类婚姻比较研究（日文版）

中日昔話における異類婚姻譚の比較研究

杨静芳◎著

当代外语研究论丛

上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

当代外语研究论丛
FOREIGN LANGUAGES STUDIES

中日民间故事中异类婚姻比较研究（日文版）

中日昔話における異類婚姻譚の比較研究

杨静芳◎著

当代外语研究论丛

上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

内容提要

本书为“当代外语研究论丛”系列之一，以民间异类婚姻故事为对象，通过共时比较和历时比较两个途径，对中日两国同类型的故事，如牛郎织女、田螺姑娘、狐女故事、蛇郎故事、神蛙丈夫等民间故事的相似点和不同点进行了探讨，对于中日同类型的故事是如何形成的、是否有同样的起源、它们之间是否有直接或者间接的影响关系、故事在流传过程中发生了什么样的变化、发生变化的原因是什么等问题进行了考察和分析。本书的读者对象主要为日语专业的高校教师、科研人员、学生等。

图书在版编目(CIP)数据

中日民间故事中异类婚姻比较研究：日文 / 杨静芳著. —上海：上海交通大学出版社，2019

ISBN 978-7-313-20575-9

Ⅰ.①中… Ⅱ.①杨… Ⅲ.①民间故事-文学研究-对比研究-中国、日本-日文 Ⅳ.①I207.7 ②I313.077

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2018) 第 280813 号

中日民间故事中异类婚姻比较研究(日文版)

著　　者：杨静芳
出版发行：上海交通大学出版社　　地　　址：上海市番禺路 951 号
邮政编码：200030　　电　　话：021-64071208
印　　刷：当纳利(上海)信息技术有限公司　　经　　销：全国新华书店
开　　本：710mm×1000mm　1/16　　印　　张：13.5
字　　数：267 千字
版　　次：2019 年 4 月第 1 版　　印　　次：2019 年 4 月第 1 次印刷
书　　号：ISBN 978-7-313-20575-9/I
定　　价：78.00 元

版权所有　侵权必究
告 读 者：如发现本书有印装质量问题请与印刷厂质量科联系
联系电话：021-31011198

序

東京学芸大学教授・一橋大学大学院連携教授
石井正己

人文・社会科学系の諸学問は、現在、国際的な学術交流なくして未来が展望できない状況にあり、東アジアにおいては中国・日本・韓国の共同研究が急速に進んでいる。本書はそうした研究動向に敏感に捉え、中国と日本の昔話における異類婚姻譚を比較検討したものである。東アジアには人間と神様・妖怪・動物・植物といった異類との結婚を主題とした昔話が豊富にあり、世界的に見てもこの地域の昔話の特色になっている。そのため、これまでそれぞれの国で個別の昔話に関する研究が重ねられてきたが、このテーマに焦点をあてた総合的な比較研究はなかった。本書ではそうした研究状況を認識した上で、母国の中国と留学先の日本に絞って、その環境を最大限に生かした研究としてまとめられた。この成果はこれまでにない独創性を持ち、研究対象とした中国と日本の学界に寄与するだけでなく、国際的な学界に対しても研究の意義を説くことができる。

本書の特色としては、まず第一に、中日昔話における異類婚姻譚を比較するにあたって、口頭伝承と文献記録をダイナミックに交叉させた点が挙げられる。20 世紀において中国と日本では口頭伝承による昔話が調査されて豊富な資料が生まれたが、19 世紀以前においても日本と中国には文献記録に残された昔話が数多く存在する。これまで前者は民俗学的な方法による共時的研究、後者は国文学的な方法による通時的研究で分析されたが、21 世紀に入って学問の専門化と細分化が進み、両者には交流が見られなくなった。そうした状況を考えるとき、本書は、研究対象を昔話の異類婚姻譚に絞ったものであるにせよ、現在の閉塞感を打開する先端的研究である

ことは間違いない。

言うまでもなく、中国と日本の比較研究を進めるには、両国の学問に精通していなければならない。その点、中国出身という利点を生かして国内の文献を渉猟するとともに、留学した日本では古典文学はもとより、民俗資料にもよく目を通した。加えて、全国規模の学会である日本口承文芸学会や日本昔話学会をはじめ、各種のフォーラムやシンポジウムに出席して人間関係を構築し、最新の情報を得る努力を重ねた。巻末の「参考文献」に入れられた中国語資料・日本語資料が充実していることが、何よりもよくそれを示している。

本書は、総論の序章と総括の終章を除き、6章の個別研究から構成される。第1章「中日七夕伝説における天の川の生成に関する比較研究」では、七夕伝説が中国から日本に伝来した事実を認めながらも、先行研究では触れなかった天の川の生成の問題を考察した。その結果、中国の白鳥処女説話と結びついた七夕伝説が日本に伝来してから、天の川の形成が日本の人々によって改変され、今のような形になったことが明らかにした。第2章「中国、朝鮮半島と日本に見られる「田螺女房」話型」では、中日韓の「田螺女房」話型を細かく比較・検討した。さらに、今まで指摘されなかった日本の沖縄と中国貴州省ミャオ族の話の類似点を明らかにし、該当話が貴州省から沖縄を経由して広がった可能性を提示した。第3章「中日蛇婿の比較——「蛇婿と姉妹型」を中心に」では、中国と日本の南島に見られる「蛇婿と姉妹型」の特徴と伝播のあり方を明らかにし、「蛇婿と姉妹型」について、日本における再認識が必要であることに言及した。第4章「「蛙婿」と「田螺息子」——異常誕生の主人公を中心に」では、これまで十分に検討されていなかった中国の「蛙婿」話型と日本の「田螺息子」話型を比較した。両者は類似したモチーフを持つが、中国の蛙は神の変身と見られ、日本の田螺はあくまでも動物として見られるという根本的に異なる考え方があった。第5章「文献記録に見られる狐女房——『善家秘記』良藤の話における『捜神記』「阿紫」の影響を中心に」では、『善家秘記』良藤の話における『捜神記』「阿紫」からの影響を明らかにした。第6章「浦島伝説の変容と中国文献記録——お伽草子『浦島太郎』をめぐって」では、浦島太郎の赴く異郷が蓬莱山から竜宮城になったのは、宗教的要求に応じるために、中国の竜宮譚に見られる竜宮と不老不死を結びつけた発想を話に取り入れたからであることを明らかにした。

こうした分析を経て、昔話の異類婚姻譚は中国の南方から沖縄を経由して日本へ来た可能性が高く、その基盤に稲作文化があることを説いた。さ

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

らに、中国では異類を排除せずに幸福な結婚を語るが、日本では異類を排除したために結婚は破局する傾向があることを論じた。国際的なタイプ・インデックスに則って、モチーフに注目することで明らかになった点は多く、その学術的な意義は大きい。

本書はこのようにして、中国と日本のそれぞれでこれまで個別的に進められてきた異類婚姻譚について、両国の研究成果を踏まえながら、共時的かつ通時的にその全体像を示した。しかも、資料を収集して分析を行う研究方法は、民俗学と国文学の双方から良質なところを学び取っており、従来の研究には見られない総合的な研究となっている。今後、中国と日本のそれぞれにおいて昔話における異類婚姻譚の研究を行う際に、必ず拠り所にしなければならない研究成果である。なお、本書は、東京学芸大学連合学校教育学研究科博士課程において、2014年9月に博士(学術)の学位を授与された博士論文がもとになっている。紙幅の関係で一部を割愛したが、中心をなす個別研究は収録してあるので、博士論文の主旨も十分に伝わっている。

前　言

由于人口移动、文化传播等原因，中国与日本自古有着很深的交流，在两国流传着许多相似的民间故事。从这些民间故事中，我们既可以看到两国人民精神生活中相似的地方，也可以看到两国人民对事物有不同的想法，还有不同的习惯和生活方式等。本书以异类婚姻故事为对象，通过共时比较和历时比较两个途径，对中日两国同类型的故事，如牛郎织女、田螺姑娘、狐女故事、蛇郎故事、神蛙丈夫等民间故事的相似点和不同点进行了探讨，对于中日异类婚姻中同类型的故事是如何形成的、是否有同样的起源、它们之间是否有直接或者间接的影响关系、故事在流传过程中发生了什么样的变化、发生变化的原因是什么等问题进行了考察和分析。同时，在探明中日异类婚姻故事关系的过程中，古典文献起了相当重要的作用。文献记录有时受到口传的民间故事的刺激，从民间故事中取材。另一方面，民间故事也会受到文献记录的影响而产生新的故事类型或者要素。因此，本书也阐明了相关的文献资料之间的关系，以及文献资料和民间故事之间的关系。

本书由绪论、正文、结论三部分构成。绪论部分首先对中日民间故事及古典文学中的异类婚姻故事进行了整理，接着从异类婚姻故事的产生、婚姻习俗等方面阐述了异类婚姻故事比较研究的意义，最后归纳了中日两国包括异类婚姻故事在内的同类型民间故事的先行研究，指出了先行研究当中存在的问题和不足。

正文部分由 6 个章节构成，第 1～4 章从共时的角度、第 5～6 章从历时的角度对中日同类型的异类婚姻故事进行了比较。

第 1 章在对中日两国七夕传说的相关文献和资料进行整理分析的基础上，提炼出中日七夕传说的基本情节，主要考察了天河形成这一情节的中日差异及原因。在中国的七夕传说中，天河通常是由簪子一划而成的，而在日本的传说

中,天河是由瓜类里冲出的大水形成的。从在七夕传说中所处的位置和带来的结果看,簪子与瓜起着相同的作用。簪子之所以没有在日本七夕传说中出现,是由于簪子在日本的广泛使用是在进入江户时代以后,所以这一情节没有被接受。而瓜类具有水分多的性质,且民俗里有许多关于瓜类的禁忌,这些要素至少在室町时代就与七夕传说相结合并流传至今。

第2章主要考察了田螺姑娘类型故事在朝鲜半岛和日本的传播和接受。笔者收集了全国各地的46个田螺姑娘类型的故事,并将这些故事分为单纯型和复合型两个类型。前者主要集中在东南沿海地区,后者则分布在全国各地。通过对文献的分析可以推测,田螺姑娘类型故事是由东南沿海地区传向全国各地,并逐渐与其他情节相结合的。这两个类型的田螺姑娘故事都传到了朝鲜半岛,而在鱼妻、贝妻等日本的田螺姑娘类型的民间故事中不但不见田螺的影子,且情节上与中国的差异也较大。但是,在冲绳却采集到了与中国的田螺姑娘极其相似的故事,而且在这些故事里出现的男主人公将妻子赶走的情节也出现在了中国贵州省苗族的故事中。这些故事给我们揭示了一种可能性,即日本的鱼妻、贝妻等故事,是从贵州省传到冲绳,接着再传到日本各地的。

第3章的研究对象为中日两国的蛇郎与两姐妹类型故事。中日两国的蛇郎故事的情节有一些类似的地方,但不同于结局圆满的中国蛇郎故事,日本蛇郎故事里的蛇郎一般都是被击退的对象。不过,在日本南面的海岛,即鹿儿岛县大岛郡和冲绳县八重山郡共采集到了12例和中国的蛇郎与两姐妹类型故事基本一致的民间故事。本章对中日的蛇郎与两姐妹类型故事的影响关系进行了分析。笔者分析了60例中国的蛇郎与两姐妹类型故事,发现该类型故事虽然在全国大范围分布,但是从密度上看,则有半数以上分布在长江以南的地区,仅是云南省就有11例之多。长江以南是古代越人居住之地,此地蛇多,且原住民对蛇的习性特别熟悉,因而蛇崇拜也比其他地方发达。从中可以推测日本南面海岛上的例子是从中国古代越人居住之地直接传播而至,或者是经过中国台湾传播而至的。

第4章将中国的40例蛙婿故事和日本的43例田螺儿子故事情节分为“神奇出生”“不可思议的能力”“娶妻”“变身及变身后”四个部分进行了比较。从中可以看到,蛙婿和田螺儿子在出生及之后的情节中都十分相似,且结局经常是动物在婚后恢复了原形。而通过对“主人公的设定”“子嗣的有无”“变身方法”的考察发现,虽然蛙婿类型故事和田螺儿子类型故事的主人公同为神的赐子,但是在多数情况下,蛙婿类型故事的主人公被设定为神的化身,而田螺儿子类型故事的主人公则被设定为动物。

第5章以文献中的狐女故事为考察对象。与日本民间故事中为人类带来子嗣和财产的狐女形象不同,在文献记录中,狐狸经常被塑造成魅惑男子的形

象。作为狐狸魅惑男子的代表性故事，平安时代《善家秘记》中的良藤的故事对后世同类作品产生了很大的影响。《善家秘记》的成书背景、作者三善清行撰书动机都受到了志怪小说以及干宝的影响。而《善家秘记》中的良藤的故事无论在故事的展开，还是在情节的设定上，都与干宝《搜神记》中的《阿紫》相似。因而可以推测《善家秘记》中的良藤的故事有很大可能是受到了干宝《搜神记》中《阿紫》的影响。

第6章主要考察了中国的文献资料对御伽草子的《浦岛太郎》的影响。御伽草子的《浦岛太郎》是与现在流传的"浦岛太郎"故事最为接近的文献资料，它既继承了前代的浦岛传说，又对后世的浦岛传说产生了很大的影响。在御伽草子的《浦岛太郎》之前，传说中浦岛太郎奔赴的异乡皆称为"蓬莱"，而通过对各个版本的御伽草子《浦岛太郎》的对比得知，浦岛太郎奔赴的异乡或称为"蓬莱"，或称为"龙宫"。虽然称呼不同，但是其本质是一样的。发生这样的变化是受到了佛教以及中国的龙宫传说的影响。

结论部分对正文部分的内容进行了总结，并对民间故事的传承方式进行了思考。

本书是在笔者的博士论文基础上修改而成的。在撰写和出版过程中，日本国立东京学艺大学石井正己教授、上海理工大学杜勤教授给予了诸多建议和指导，在此一并致以诚挚的谢意。

由于笔者才疏学浅、学术水平有限，若有不足之处，敬请各位专家同仁和读者不吝赐教。

本书为上海高校青年教师培养资助计划（项目编号：10－17－305－805）及上海理工大学人文社会科学基金项目（项目编号：1F－18－305－011）的资助项目。

目　次

序章 …… 1
第1節　中日の異類婚姻譚 …… 1
第2節　中日異類婚姻譚比較研究の意義 …… 7
第3節　中日昔話比較研究の現状 …… 10

第1章　中日七夕伝説における天の川の生成に関する比較研究 …… 13
第1節　先行研究及び問題意識 …… 13
第2節　天の川の生成 …… 15
第3節　かんざしと七夕伝説 …… 19
第4節　かんざしから瓜へ …… 26
おわりに …… 32

第2章　中国、朝鮮半島と日本に見られる「田螺女房」話型 …… 33
第1節　中国における「田螺女房」話型 …… 34
第2節　朝鮮半島における「田螺女房」話型 …… 41
第3節　日本における「田螺女房」話型 …… 43
おわりに …… 48

第3章　中日蛇婿の比較——「蛇婿と姉妹型」を中心に …… 56
第1節　先行研究について …… 56
第2節　中国の「蛇婿と姉妹型」 …… 58
第3節　日本の「蛇婿と姉妹型」 …… 61
第4節　「蛇婿と姉妹型」の伝播および変容 …… 68
おわりに …… 70

第4章　「蛙婿」と「田螺息子」—異常誕生の主人公を中心に …… 92
第1節　AT分類から見る「蛙婿」と「田螺息子」 …… 92
第2節　「蛙婿」と「田螺息子」の構成 …… 94
第3節　両話型の相違点について …… 104
おわりに …… 108

第5章　文献記録に見られる狐女房
——『善家秘記』良藤の話における『捜神記』「阿紫」の影響を中心に
…… 142
第1節　中日の狐女房について …… 142
第2節　『善家秘記』良藤の話 …… 147
第3節　干宝『捜神記』と三善清行『善家秘記』 …… 149
第4節　『捜神記』「阿紫」と『善家秘記』良藤の話との比較 …… 153
おわりに …… 161

第6章　浦島伝説の変容と中国文献記録
——お伽草子『浦島太郎』をめぐって …… 166
第1節　浦島伝説に関わった中国文献について …… 167
第2節　お伽草子『浦島太郎』以前の浦島伝説 …… 168
第3節　お伽草子『浦島太郎』について …… 174
おわりに …… 186

終章 …… 187
第1節　結論 …… 187
第2節　今日の昔話の伝え方を考える …… 188

参考文献 …… 191

索引 …… 202

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

序　章

本書では、中国と日本の昔話における異類婚姻譚を対象にして、比較研究を行う。異類婚姻譚とは、人間と人間以外のものとの婚姻、もしくはその性的な交渉を基軸に展開する昔話群である。広く説話の一般にも適用される。本書の考察対象は、昔話における異類婚姻譚及びそれに関連する文献記録に限定する。

第1節　中日の異類婚姻譚

1. 中国の異類婚姻譚

20世紀初頭より収集され、出版された各種の昔話集から、中国では、漢民族は言うまでもなく、少数民族も多彩な異類婚姻譚を有していて、語っていることがわかる。中国の昔話における異類婚姻譚の類型については、いままで出版された3つの類型索引でわかる。そこでは、それぞれ以下のように分類している[①]。

①ヴォルフラム・エーバーハルト『中国民間故事類型』(1937年)では、「動物か精霊と人間の結婚」の枠組みの下にあり、31　蛇郎、32　シンデレラ、33　変形男、34　白鳥処女、35　田螺女房、36　画の中の人、37　虎女房、38　熊人公、39　願いを叶う竜王、40　竜女、41　犬の伝説、42　蛙皇帝、43　蛙息子、44　妖怪に化す蛙、45　蚕、46　妖怪の娘というように分類した。

---

① エーバーハルト氏と丁氏の索引は広義の「民間故事」を扱った。金氏は狭義の「民間故事」を扱った。

②丁乃通『中国民間故事類型索引』(1978年)では、「一般民間故事・神奇故事」の下に、312A　猿の巣から娘を救う、400　妻を捜す夫、400B　画の中の女、400C　田螺女房、400D　他の動物女房、411白蛇伝、433D蛇婿、440蛙王子、555竜女と分類した。

③金栄華『民間故事類型索引(上中下)』(2007年)では、「一般民間故事　神奇な妻」(400　仙妻を捜す夫、400A　鳥妻、400B　画の中の女、400C　田螺女房、400D　人間に変身した動物女房、400D.1　人間に変身した植物女房・品物女房、402　動物花嫁、411　蛇女)、及び「一般民間故事　神奇な夫」(425　失踪した夫を捜す、425C　美女と獣、430F　犬婿入り、430F.1　犬婿入り、430F.2　犬婿入り、433D　蛇郎君、433D.1　豹夫、440　蛙の王子、440A蛙聟入)と分類した。

昔話研究に大きな貢献を果たした3つの類型索引は、今日から見れば、様々な問題を抱えている。エーバーハルト氏(W.Eberhard)は、『中国民間故事類型』において、独自の分類法を用い、合計246のタイプを数えあげた。しかし、その中で、中国少数民族の大量の昔話が収録されず、神話、伝説、昔話が区別せずに収集されたことは、この研究の大きな問題点として挙げられる。

中国系米国人丁乃通氏が1978年に出版した『中国民間故事類型索引』は、現在までも中国の昔話研究によく参照されている。『中国民間故事類型索引』は1966年の前に発行された500余種の中国昔話の書籍と雑誌から資料を集め、アールネ・トンプソンのタイプ・インデックス、通称AT分類に基づいて編集された。「動物昔話」「本格昔話」「笑話」「格式昔話」「分類しにくい昔話」の5つに大別し、ATに対応させ、タイプ番号を与えた。

金栄華氏の『民間故事類型索引(上中下)』は、現在出版された最も新しい類型索引書である。『民間故事類型索引(上中下)』は、AT分類及び丁乃通氏の『中国民間故事類型索引』に基づいて、20世紀後半の中国の昔話資料と中国語に訳された外国の昔話を対象に、類型索引を作成した。

中国の豊富な昔話を、ヨーロッパの昔話を中心に編纂されたAT分類に当てはめるのに、無理な部分があることは否定できない。しかし、AT分類はもはや世界的に用いられる分類の標準であり、比較研究には大変役立つものである。よって、本書においては、これらの類型索引を活用する。

一方、中国の古典からも、人間と異類の婚姻を題材とした作品が絶えず生まれてきた。漢王朝から清朝に至るまで、人間と神・仙、妖怪、霊魂・幽霊の契りを語った作品が数多く生まれた。これらの異類婚姻譚は分類の際に、普通人仙恋(人と仙人の婚姻譚)、人妖恋(人と妖怪の婚姻譚)、人鬼恋

(人と幽霊の婚姻譚)と、3つに分けられている。漢代劉向(紀元前77年～紀元前6年)撰と伝える『列仙伝』の「江妃二女」という一篇は中国最初の人仙婚姻譚と思われる(李剣国，2005:195)。主人公の書生鄭交甫は漢水の畔で偶然に二人の仙女に出会って、愛慕の情が生じ、玉佩を贈ることを求めた。鄭交甫と二人の仙女は詩歌を唱和し、互いに佩を贈った。しかし、別れてまもなく、佩が消えてしまい二人の仙女も姿を消してしまった。「江妃二女」の筋は極めて単純であるが、中国異類婚姻小説の発端として高く評価されている。

中国最初の人鬼婚姻譚は、三国時代の魏の曹丕(187～226年)の『列異伝』にある「談生」と言われる。「談生」で、談生と女子は契りを結んだ。女子と、「三年になったら、火で照らしていい」と約束した談生が、我慢できず火で照らしてみたら、女子の腰から上は人間の姿だったが、腰から下はまだ骸骨だけだった。談生が約束を破ったため、二人は破局を迎えた。

殆ど同じ時期に、中国最初の人妖婚姻譚と言われた作品が生まれた。それは、『列異伝』の「鯉魅」と晋の郭璞(276～324年)撰『玄中記』の「姑獲鳥」である。前者は人間と鯉の精、後者は人間と鳥の精の恋愛を描いたものである。

以上からわかるように、中国古典小説の第一段階――漢魏晋南北朝時期において、異類婚姻譚はすでに題材の一種として描かれている。この時期の異類婚姻譚は、唐以降の作品より短くて単純であるが、異類婚姻譚の基本的な要素は既に備えていた。

異類のパターンのほかに、この時期の異類婚姻譚から出てきた異類婚姻譚の粗筋も広く後世に継承されている。この時期の典型的な異類婚姻譚の筋は以下のようにまとめることができる(劉耘，2000(1):19-23)。

(1) 人と仙人の婚姻譚。①仙女が人間界に来て、人間と結婚する。②人間が山に入って、仙女に出会う。③人間が仙人になる。④人間を祭祀品として、仙人に奉る。
(2) 人と幽霊の婚姻譚。①生と死を超えた恋愛。②人と幽霊の婚姻。
(3) 人と妖怪の婚姻譚。①妖怪は人間の姿に変わって、人間の相手を誘惑し、危害を加える。②白鳥処女伝説。

唐の時代になると、「伝奇小説」が盛んになった。志怪小説の素朴さ、単純さに対して、伝奇小説は筆鋒から内容まで細かくて複雑になった。婚姻譚の題材について、唐伝奇は前代にないパターン「才子と遊女」を作り上げた。このパターンを異類婚姻譚と結びつけて、『遊仙窟』『霍小玉伝』のよう

な作品が生まれた。この時代に描かれた異類は人間のように豊かな感情を持つようになった。たとえば、唐代伝奇『任氏伝』には、美しくて善良な女に変身した狐が登場して、狐である絶世の美女任氏と鄭六の間の愛情が語られる。鄭は任氏が狐であることを知っても心を変えず、彼女を愛する。しかし、任氏は猟犬に追われ噛み殺される。唐代の作品に描かれた異類は前代より人物造形が詳細であり、人間性もだんだん現れてきたと考えられる。

この流れは、「伝奇の風韻が、明末には天下に弥満していて、朝代がかわっても改まらなかった。」(魯迅著, 1997:139)と魯迅氏の言った通り、伝奇の風が唐の時代から吹き始め、宋、元を通して、明の時代まで続いた。異類婚姻譚の創作は、唐の形式にあまりに強く影響され、新しい題材が作り出せず、その活力が段々低落してきた。『大平広記』『剪灯新話』などは宋、元、明の時代の代表的な作品である。

清の時代になると、蒲松齢(1640～1715年)の『聊斎志異』が出現した。神仙、鬼、妖怪、不思議な人間などに関する物語や見聞を集め、怪異小説の集大成と高く評価された。現存16巻431篇のうち、異類婚姻を語るものが百篇余りもある。『聊斎志異』における異類婚姻譚は、今日になっても人々に愛読され、映画化、ドラマ化されつつあり、後世に影響を与え続けている。

2. 日本の異類婚姻譚

異類婚姻を語る昔話は日本全土に見られる。登場する動物が多く、主題も多彩である。日本の昔話における異類婚姻譚の分類について、関敬吾氏の『日本昔話大成』と稲田浩二氏、小澤俊夫氏の『日本昔話通観』は、異なった方法を見せている。それぞれ以下のようである。

①関敬吾『日本昔話大成』(1978年)では、「本格昔話　婚姻・異類聟」(101A　蛇聟入・苧環型、101B　蛇聟入・水乞型、101C　河童聟入、102　鬼聟入、103　猿聟入、104A　蛙報恩、104B　蟹報恩、105　鴻の卵、106　犬聟入、107　蜘蛛聟入、108A　蚕神と馬、108B　蚕由来、109　木魂聟入)と「本格昔話　婚姻・異類女房」(110　蛇女房、111　蛙女房、112　蛤女房、113A　魚女房、113B　魚女房、114　竜宮女房、115　鶴女房、116A　狐女房・聴耳型、116B　狐女房・一人女房型、116C　狐女房・二人女房型、117　猫女房、118　天人女房、119　笛吹聟)というように分類した。

②稲田浩二、小澤俊夫『日本昔話通観』(1977～1998年)では、「むかし語り・婚姻」の下に、205　蛇婿入り、206　蛇の求愛、207　鬼婿入り、208

たら婿入り、209　くも婿入り、210　猿婿入り、211　猪婿入り、212　犬婿入り、213　観音女房、214　絵紙女房、215　竜宮女房、216　竜宮の婿とり、217　絵姿女房、218　魚女房、219　貝女房、220　はんざき女房、221　天人女房、222　星女房、223　月女房、224　蛇女房、225　狐女房、226　熊女房、227　猫女房、228　蛙女房、229　鶴女房、230　鳥女房、231　木霊女房、232　花女房、233　しがま女房、234　雪女房というように分類した。

『日本昔話大成』は、1950～1958年に出版された『日本昔話集成』の元に、改訂されたものである。動物昔話(第1巻)、本格昔話1～6(第2～7巻)、笑話1～3(第8～10巻)、資料篇(第11巻)、研究篇(第12巻)からなっている。関氏の言葉によると、『日本昔話集成』は比較研究の立場から日本の昔話を研究することに目的をもって編集したものである。外国との比較研究のために、各話型にAT番号を付した。

稲田浩二、小澤俊夫編『日本昔話通観』は、1977～1998年の間に、都道府県別の資料編26巻(第1巻～第26巻)、補遺1巻(第27巻)、昔話タイプインデックス(第28巻)、総合索引(第29巻)、研究編1、2(第30、31巻)からなっている。稲田氏は第一巻の編集趣旨の部分では、

> われわれの当面の課題は、ありのままの伝承の事実を、先学の調査の成果にたすけられつつ正確に把握し、これを共時的観点に立って整理し、今後の研究のための基礎をつくることにある。その際われわれが重視するのは、調査資料を伝承圏別に通観して、それぞれの圏内で昔話がいかに生息しているか、その伝承文芸的形象の風土性を明らかにすることである。ために整理の便宜上これを都道府県別ないしは地方別にまとめるとともに、伝説・世間話などについても昔話と交差するものは積極的に対象として、民間説話の世界を構想することを目指している。

と述べた。確かに、この点においては、いままでの研究書と異なり、資料はたいへん充実している。分類については、可能な限り柳田国男『日本昔話名彙』と関敬吾『日本昔話集成』(後『日本昔話大成』の署名で増補)のそれを継承したが、新しい見解によって、新しいタイプもある。特に、2冊の研究編が付いているため、昔話の比較研究に大いに役立つ。

一方、古典文学の面では、人間と異類の交渉を説く最も古い資料は『古事記』巻中の「三輪山神話」に見える。娘のもとに通う正体不明の男の着物の襟に針で糸をつけて辿っていくと美和山の社に着き、正体は神とわかる。『日本書紀』では神の正体は蛇である。流布本『平家物語』巻第8「緒環」の豊後国

の緒方三郎惟義の先祖を説く話も「三輪山神話」と同じ系列と認められる。

平安時代の『日本霊異記』巻上ノ2「狐を妻として子を生ましめし縁」に説く人間の男と狐の女の話は「狐女房」の話の典型である。現存する日本最大の古代説話集『今昔物語集』に、合計21話の異類婚姻譚が見られる。

室町時代から江戸時代前代にかけて出現した御伽草子になると、前代の文学から取材し、口承文芸などの中から新たに異類婚姻譚が作成された。『天稚彦物語』『狐の草子』『鼠の草子』『雁の草子』などの16篇が見られる。

そして、江戸時代になると、怪談物が続出してきて、中には異類婚姻譚のものも少なくない。『平仮名本・因果物語』(1661～1673年)巻5の1「きつねに契りし、僧の事」、『伽婢子』(1666年)巻9の1「狐偽りて人に契る」、『諸国百物語』(1677年)巻4の15「猫また、伊藤源六が女房に化けたる事」、『新御伽婢子』(1683年)巻1の8「遊女猫分食」などが見られる。

このように、中日の異類婚姻譚はいずれも、言葉によって語り継がれるだけでなく、文字でも記録されている。言葉で語り継がれた口承の資料と、文字で記録された書承の資料はしばしば影響しあい、同じモチーフを持つものも少なくない。

異類婚姻譚は遠い昔から語られていて、社会の変遷に応じて、今日の形に発展してきた。その発生と分布、特徴を知るには、比較の視点は欠かせない。中国の異類婚姻譚研究にとって、遠く離れた地域の話と比較するより、むしろ日本をはじめとした東アジアの諸国との比較が当面の急務であろう。とくに、日本とは一衣帯水の隣国として、古い時代から人間の移動、文化の伝播などで深い交流があったため、両民族の精神生活の根底には似ているところが大いにある。それは中日異類婚姻譚の比較を通して、明らかになるに違いない。

一方、日本の基礎文化の形成に、大きな役割を演じたと思われるものには、照葉樹林文化、ナラ林文化、稲作文化などが挙げられる。どちらも中国との比較が重要で、中国なしに論じることができない。もちろん、昔話も比較の対象である。例えば、照葉樹林文化論を提唱する佐々木高明氏は、『照葉樹林文化とは何か』において、特に異類婚姻譚の羽衣伝説に興味を示し、

> この羽衣伝説——学界では「天人女房型説話」とよぶ——の場合でも、中国大陸の照葉樹林帯の少数民族の伝承する説話の特徴と日本のそれとの間には、個々の要素の類似だけでなく、全体の構造的な類似の度合いがきわめて高いことが注目される。それらは偶然の一致という限界をはるかに越えたものということができるのである。(佐々木高明, 2007:91-92)

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com